

2020年8月23日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

エレミヤ書 17：9～10

ルカによる福音書 9：46～48

「だれが偉いか」

<弟子たちの議論>

イエスさまの弟子たちの間で、自分たちのうち、だれがいちばん偉いか、という議論が起きました。だれがいちばん偉いか。誰が弟子たちの中心になる者か。誰が重んじられるべき者か。誰が格上で、誰が格下なのか。

この聖書に使われている「いちばん偉い」と訳されている言葉は、「いちばん大きい」という言葉です。誰がこの集団の中で大きい存在なのか。一目置かれるべき人。リーダー的存在。注目され、みんながその意見に耳を傾けるべき人は誰か、ということです。

でも、自分たちの中で、いちばん大きい存在を考えるとすることは、反対に、大きな存在に選ばれることのない、大きな人よりも劣った、小さな存在の人、ある人よりも軽んじられている存在の人がいる、ということです。弟子たちは、自分たちの中での、そういう順序、序列を気にし始めたのです。

それにしても、どうしてこんな議論が起こったのでしょうか。もしかすると、以前、十二人の弟子の中で三人だけイエスさまに連れられて山に登ったので、この三人は特別なのかな、と考えたのかも知れません。また前回の聖書箇所、山のふもとで待っていた残りの弟子たちが、病の子どもを癒すことが出来なかった、ということが語られていました。それで、そんなダメな弟子たちは二軍なんじゃないか、という雰囲気生まれたのかも知れません。

こんなことを議論する弟子たちのことを、子どもじみているなあと思われるのでしょうか。

でも、これはわたしたちの間でも、どこかの集団にいる時や、何人かの仲間が集まった時に、議論せずとも心の中で、大きな存在が誰かを気にしている、誰かを小さく扱っている、自分が集団の中でどの位置にいるか見定めようとしている、ということがあると思うのです。

何かの基準で回りの人を評価して、あの人は優れている、あの人はちょっと足手まといだな、と判断していたり。この人の意見はちゃんと聞かないといけないけれど、あの人は大したことを言わないから聞き流してもいいや、と思っていたり。集団の中で何となくそういった雰囲気が共有されていて、重んじられている人と軽んじられている人がいる。そして、自分はその人には敵わない、でもあの人よりはマシかな、と。そんなことを感じたり考えたりしたことは、誰にでもあるんじゃないでしょうか。

そして人は、やはり自分も重んじられたい。大切にされたい。中心にいたいと思っています。積極的な形としては、マウントを取る、なんて言い方をしますが、自分の力を誇示した

り、人のことを批判したりする人がいます。その一方で消極的な形だと、自分はこの集団の中で軽んじられている、疎外されている、居場所がないと感じて、劣等感を抱いたり、自己評価が低くなったり、あるいは妬みや憎しみを抱くことがあるかも知れません。どちらも、自分が人から重んじられたいと思うことの表れです。

人と比べる。誰が大きいかに気にする。誰かを小さく扱う。人や自分を何かの基準で評価する。これは、私たちがどうしようもなく捕らわれてしまっている、心の思いではないでしょうか。それは私たちをととても苦しみ、また追い詰めていくものです。

#### <子供を受け入れる>

47 節には、イエスさまは、そんな弟子たち、私たちの心の内を見抜いておられる、とあります。そして、イエスさまは子どもを連れてきて、ご自分の側に立たせて、議論する弟子たちに言われました。

「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

イエスさまは、「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」と言われました。まず、イエスさまの名のために、この子供を受け入れなさい、と言われたのです。

これは、当時の「子供」がどういう扱いを受けていたかを知らなければ、意味がよく分かりません。今、私たちは、子供というのは人格が尊重され、権利が守られ、大切にされるべき重要な存在、として捉えているのではないのでしょうか。こういう子供を受け入れること、つまり大切にし、重んじ、守っていくことは、当然のことにように思えます。

しかし、当時のユダヤ人社会において、子供というのは人として半端で、一人前の価値のない存在とされていました。無価値で、軽んじられても、無視されても良い存在。人数に入らない、ちゃんと扱う必要のない、受け入れる必要がない、そういう意味で本当に小さな軽い存在、最も小さな者だったのです。

ユダヤ人の男たちは、子供のことは関わらず、女や奴隷に任せていたそうです。ですから、この子供にわざわざ関わる、受け入れるというのは、メリットがないし、無駄な時間と労力をただただ取られてしまう、そんな面倒で、意味のないことでした。

しかしイエスさまは、そういう無価値だと思われている者。受け入れられず、軽んじられているような最も小さい者こそ、あなたたちは受け入れなさい。迎え入れなさい。一緒にいて、大切に、共に歩みなさい、と弟子たちに言われたのです。

共に歩み、共に生きている人同士を比べて、序列をつけて、誰が大きく偉い人か、誰が小さい人かを決めるのではなく、子供、最も小さい人、最も軽んじられているような人をこそ、あなたたちは受け入れ、重んじ、共に歩みなさい、と教えられたのです。

<イエスさまの名のために>

しかしこれは、それが人として理想的なことだからとか、それが道徳的に正しいことだからそうしなさいと言われていたのではありません。

イエスさまは、「わたしの名のためにこの子供を受け入れる」ように、とされました。イエスさまの名のために、イエスさまという方の存在ゆえに、最も小さい者を受け入れなさい、ということです。

それはどういうことでしょうか。このことを知るためには、イエスさまがどのような方か、何をして下さったかを知らなければなりません。

イエスさまが、弟子たちにこのことを教えられたのは、前回の聖書箇所 9 章 44 節で、ご自分が「人々の手に引き渡されようとしている」、つまり、イエスさまがメシアとして、十字架の苦難と死を味わわなければならない、ということを予告された後です。

しかし、弟子たちにはその言葉がまだ理解できなかった、と語られていました。イエスさまが何をするために来られたか。イエスさまがどういう救い主なのか。彼らは、まだそのことを受け止めることが出来ていなかったのです。

イエスさまは、神さまに遣わされた神の御子であり、わたしたちの「救い主」です。しかも、イエスさまは、9 章 22 節で自ら語られたように、人々に苦しめられ、ユダヤ人の指導者たちに排斥されて殺され、そして復活する「救い主」です。イエスさまは苦しみの道、十字架の苦難と死の道を歩まなければなりません。それから、復活の栄光に至られると語られました。それが、救い主の道であり、神さまがわたしたちを救うために用意されたご計画であり、イエスさまが実現して下さる御業なのです。

では、なぜ救い主は苦しみを受けなければならないのでしょうか。

それは、イエスさまが、わたしたちの罪を代わりにすべて背負って下さるからです。わたしたちは神さまに対して罪を犯しています。神さまに向かうべき心が、自分に向かい、世の中のことに向かっています。神さまに従わないで、自分の思いや、世の事柄に従っています。

造り主であり、命の源である神さまから、自ら離れて行くわたしたち。自分の思い、願いに従って、自己中心的に生きるわたしたち。それは、神さまを激しく怒らせることであり、神さまを深く悲しませる罪なのです。

また、そのようにして従うべき神さまに従わないことは、神さまとの正しい関係を破壊しているということです。神さまとの関係を失うと、わたしたちは、神さまと共に生きるようにと与えて下さった周りの人々との関係もおかしくなり、共に生きていけなくなり、共に滅びへ向かう者となってしまいます。

わたしたちは、神さまの御前で、どうしようもない罪人なのです。神さまに対して、取り返しのつかない罪を犯し、そのままどんどん突き進んでしまい、神さまを軽んじ、隣人を軽んじ、自ら滅びに向かっているのです。そんな罪と死に、捕らわれているのです。わたした

ちこそ、取り柄のない、ただ破壊するだけの、弱くて、傲慢で、神さまにとって苦しみしか与えないような、小さく扱われるべき存在なのです。軽んじられても、無価値と思われても、滅んでしまっても仕方ないと思われるような存在なのです。

しかし。それでも神さまは、わたしたちを重んじて下さいました。わたしたちの心の底まで見抜いておられ、罪の深さも、愚かさもよくご存知の神さまは、それでもわたしたちを見捨てず、諦めず、忍耐し、迎え入れ、受け入れ、共にいることを望んで下さったのです。

そのために。わたしたちの罪を償い、わたしたちを滅びから救い出し、新しい命に生きる者とするために、神さまはご自分の御子であるイエスさまを、救い主として遣わして下さいました。そして、この方にわたしたちのすべての罪を、すべての苦しみを、すべての滅びを、担わせられたのです。だから、救い主は苦しみを受けなければならないのです。

イエスさまの十字架の苦難と死は、神さまのわたしたちに対する思いの表れです。

取るに足らず、無視され、見捨てられ、受け入れられなくても仕方ない、小さな者であるこのわたしを、神さまが赦して下さいました。受け入れて下さるために。神さまと共に生きる者として下さるために。イエスさまは、父なる神さまの御心に従って、苦しみを受け、我慢し、耐え忍び、ご自分の命を捨てて、わたしたちを罪と滅びの死から救い出し、御業を成し遂げて下さったのです。

このように、神さまに愛され、憐れまれ、イエスさまに救われ、大切にされ、重んじられた、わたしたちなのです。小さいにも関わらず、見捨てられても仕方ないような者であるにも関わらず、御子の命と引き換えに救って下さるほど大切にされた、わたしたちなのです。

だから、このようにあなたが、神さま、イエスさまに、迎え入れられ、受け入れられ、重んじられたことを知るならば。この恵みの現実には生かされていることを知るならば。あなたを救って下さったイエスさまのゆえに。あなたにイエスさまがして下さいましたように。あなたもまた、小さい者を迎え入れ、受け入れ、重んじて一緒に歩いていきなさい。共に生きていきなさい、と言われていたのです。

そのようにイエスさまの救いをしっかりと受け取って、イエスさまが望まれるように生きることが出来るなら。神さまのわたしへの思いを受け取って、神さまに遣わされたイエスさまがわたしにして下さったように、わたしも小さい者を受け入れて歩もうとするならば。その時、わたしたちは、イエスさまを受け入れているのであり、またイエスさまを遣わして下さいました神さまを、確かに受け入れている、ということなのです。

しかし、もし口や態度で神さまを信じているように振る舞いながら、共にいる者たちの中の最も小さい者を受け入れていないなら、それは自分自身がどのようにイエスさま、神さまに受け入れられ、重んじられたかを受け止めていないのです。神さまの御心を、イエスさまがして下さいました救いの御業を、心から受け入れていないのです。

<最も小さい者こそ>

今日のところでは、弟子たちはまだこの時、自分の罪に気付かず、神さまに心が向いておらず、イエスさまがどのような救い主であるかを、受け入れることが出来ていませんでした。

自分がどれだけ神さまに従うことが出来ない小さい者か。そして、自分こそ最も小さい者であるにも関わらず、どれだけ神さまが自分を愛し、憐れみ、イエスさまの苦しみによって受け入れ、共にいようとして下さっているか。それがまだ分かっていないのです。

そのために、イエスさまの許で共に歩んでいる仲間同士の関係を、尊重し愛し合うものではなく、比べて競い合うものにしてしまっていました。イエスさまは、そのような弟子たちの心の内を見抜いておられた、ということなのです。

わたしたちもまた、イエスさまがどのような方で、わたしのために何をして下さったか。父なる神さまがどのような御心で、どのようにわたしを扱って下さったか。このことを知り、そして受け入れるのでなければ、イエスさまの名のために小さい者を受け入れ、共に生きる、ということは出来ません。

でも今、十字架と復活の救いの御業を成し遂げられたイエスさまが、聖霊によって、御言葉によって、この恵みをはっきりとわたしたちに知らせて下さいます。父なる神さまの愛を示して下さい、御心を教えて下さり、この恵みを受け入れなさい、わたしに従って生きる者となりなさい、と招いて下さっています。

イエスさまは最後に言われました。「あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」それは、言葉を補うなら、あなたがた皆の中で、最も小さい者こそ、最も受け入れられるべき者。最も重んじられ、大切にされるべき者である、ということです。

最も小さいあなたが神さまに受け入れられたように。最も小さいあなたがイエスさまに受け入れられたように。あなたもまた、小さい者を受け入れる者となりなさい。あなたが受けた恵みに生きなさい、ということです。

わたしたちこそまず、神さまの御前で最も小さい、見捨てられても仕方ない、神さまに苦しみしか与えることのないような者でありました。しかし神さまは、そんなわたしを探し出し、迎え入れ、喜んで受け入れて下さった。そのために、大切な愛する独り子であるイエスさまの命をも、与えて下さった。まず、わたしたちは自分が受けたこの神さま、イエスさまの恵みを知らなければなりません。この恵みに生きる者とならなければなりません。

そして、本当にこのイエスさまの、わたしのための十字架と復活の御業を受け入れ、そうしてわたしの罪を赦し、生きることを望んで下さった神さまの御心を受け入れるならば。その恵みに生かされているならば。わたしたちもまた、神さまの許で、イエスさまの許で、小さい者を受け入れ、共に苦しみを担い、共に喜びを分かち合い、共に生きていく者とされるのです。そうして、イエスさまの救いの恵みが、神さまの御心が、この地上において、わたしたちの歩みを通して、具体的に、現実的に、現わされていくのです。

## 【お祈り】

天の父なる神さま

あなたに逆らい、背き、離れていったわたしたちを、あなたを苦しめることしかしない、まことに小さな、見捨てられても仕方ないようなわたしたちを、あなたは愛していて下さり、重んじて下さり、価値ある者として見つめていて下さいました。

そのゆえに、神の独り子であるイエスさまを遣わして下さい、苦しみと十字架の死によってわたしたちの罪を赦し、わたしたちをあなたの子として迎え入れ、受け入れて下さいました。この驚くべき恵みを、心から感謝いたします。

あなたから頂いたこの救いの恵みを、わたしたち一人一人が心から受け取り、心から悔い改め、心からあなたに、イエスさまに従って生きる者となることが出来ますように。聖霊によって、わたしたちを導き、恵みを受け取らせ、あなたの御心に適った者として下さい。

わたしたちが、最も小さい者を喜んで受け入れ、また受け入れられ、共にあなたを礼拝して生きる群れとなることが出来るようにして下さい。

イエスさまの御名によって、お祈りいたします。アーメン